

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

沼津駅周辺地区第4回勉強会

開催概要

4月13日（土）、沼津駅周辺地区第4回勉強会が開催され、24名の方が参加しました。

初めに事務局から、ステップ2の成果「地域づくりの目標」が策定されたこと、および、ステップ3に正式に移行したことについての報告がありました。引き続き、ステップ3の議論のために今回事務局が作成した評価項目（案）について説明があり、参加者全体で討議がありました。評価項目（案）の根拠や妥当性を問う意見の他、自動車や自転車の集まりやすさも重要であるとの意見、また、歩行空間の快適さを駅周辺地区の範囲で評価したいことなどについて意見が出されました。

次に、戦略案（代替素案）については、事務局が作成した3つの案（①総合整備案、②個別対応案、③趨勢比較ケース）についての説明の後、グループごとに議論が行われました。各グループとも、どのような戦略案（代替素案）にせよ、地域づくりのランドデザインが必要であることや、ハード施策のみならずソフト施策が重要であるとの認識が示されました。また、それぞれの戦略案（代替素案）に係る事業費や事業期間や事業主体を明らかにし、精度の高い議論を行いたいとの提案がありました。

①総合整備案については、現在進行中の区画整理事業で生み出された土地の使い方が魅力的でないとの意見や、今後着手するのであれば共同化を図るなど市民を巻き込んだマネジメントを行い、そのことで駅前にランドマークとなる空間を設け、既存の施設や周辺地域と合わせて魅力を生み出すことが必要との提案がありました。また、駅前だけではなく駅周辺においても、地域づくりの目標に向けた整備が必要であることが各グループから共通に指摘されました。その他、総合整備案については、駅前の開発が既存商店街を衰退させる要因にならないかとの心配や、15年後にならないと効果が表れないのは困るとの懸念、仮設の自由通路や区画整理事業など段階的な対策を検討したいとの提案が出されました。

②個別対応案については、現道の改良で十分な路線や、オーバーパス（跨線橋）が不要な路線を指摘する意見が多く出されましたが、オーバーパスの延長をさらに延ばす提案や幅員を広げる提案もありました。また、個別対応案に対して、オーバーパスが市街地の新たな分断要素になるとの指摘や、特に歩行者や自転車の回遊性を確保する視点からは課題があること、また、オーバーパスに必要となる土地の地権者と交渉が難しいのではないかとといった問題や、すでに確保されている片浜の車両基地用地の扱い等の課題が指摘されました。また、沼津駅の新たな魅力をつくるため、橋上駅を単に歩行者や自転車が通れるだけの施設とするのではなく、人工地盤の上に緑地や商店街を設け、南北の市街地を繋いだらどうかといった提案もありました。

比較のための③趨勢比較ケースに関する議論では、駅南北地区の結節と商業活性化は沼津にとって不可欠であることや、膠着状態のまま結論が先送りされることは最も避けるべき状況であるとの認識が共有されました。

この他、多くの市民はこの問題に関して無関心であり、重要な問題として捉えていないのではないかという意見や、新中川の治水対策は早期に着手する必要があること、車両基地や貨物駅を移転しつつ高架化はしないという案があり得るのか検討してほしい、という意見がありました。

次回（5月11日（土））は、引き続き評価項目と戦略案（代替素案）について議論する予定です。